

上越市クリーンセンター 生活環境保全協議会 資料

資料1 上越市クリーンセンターの運営状況について

上越市クリーンセンター 施設の特徴

平成30年度ごみ受入量

平成30年度ごみ焼却処理量

平成30年度焼却炉の稼働状況

平成30年度ごみピット量

平成30年度発電状況

平成30年度灰搬出量

平成30年度灰処分量

環境をみまもるための測定・管理について

平成30年度大気汚染防止法に基づく測定（ばい煙測定）

平成30年度 大気汚染防止法に基づく測定（ダイオキシン類）

平成30年度 燃焼ガス温度の推移

平成30年度 一酸化炭素の排出状況

平成30年度 大気汚染防止法に基づく測定（ばいじん）

平成30年度 大気汚染防止法に基づく測定（塩化水素）

平成30年度 大気汚染防止法に基づく測定（硫黄酸化物）

平成30年度 大気汚染防止法に基づく測定（窒素酸化物）

平成30年度 大気汚染防止法に基づく測定（水銀濃度）

資料2 環境測定結果について

平成30年度 敷地境界線上における粉じん濃度

平成30年度 敷地境界線上における騒音および振動

平成30年度 敷地境界線上における臭気

平成30年度 周辺環境のダイオキシン類濃度 土壌

平成30年度 周辺環境のダイオキシン類濃度 大気

資料3 平成30年度 年間運転計画／実績表

資料4 平成30年度 環境測定結果一覧表（上期／下期）

資料5 上越市クリーンセンター 環境測定の概要

資料6 上越市クリーンセンター 火災事故の発生原因と再発防止策

資料7 上越市クリーンセンター 地域イベントへの協賛

以上

上越市クリーンセンター
生活環境保全協議会資料

上越市クリーンセンターの運営状況について

上越環境テクノロジー株式会社

上越市クリーンセンター 施設の特長



安心、安全で安定した
施設

環境保全に限りなく
配慮した施設

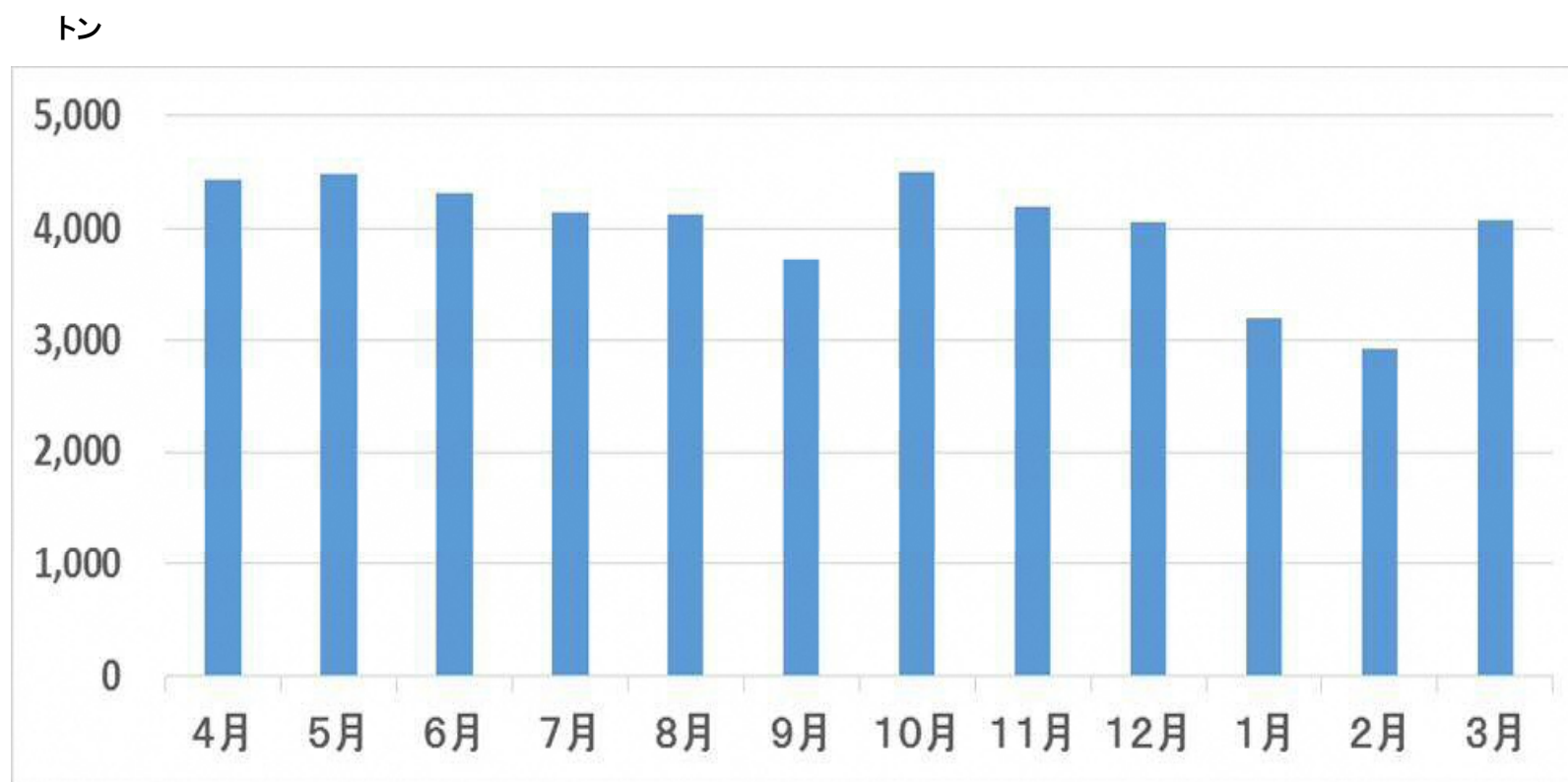
エネルギーと資源の
回収に優れた施設

周辺環境に調和した
施設

経済性に優れた施設

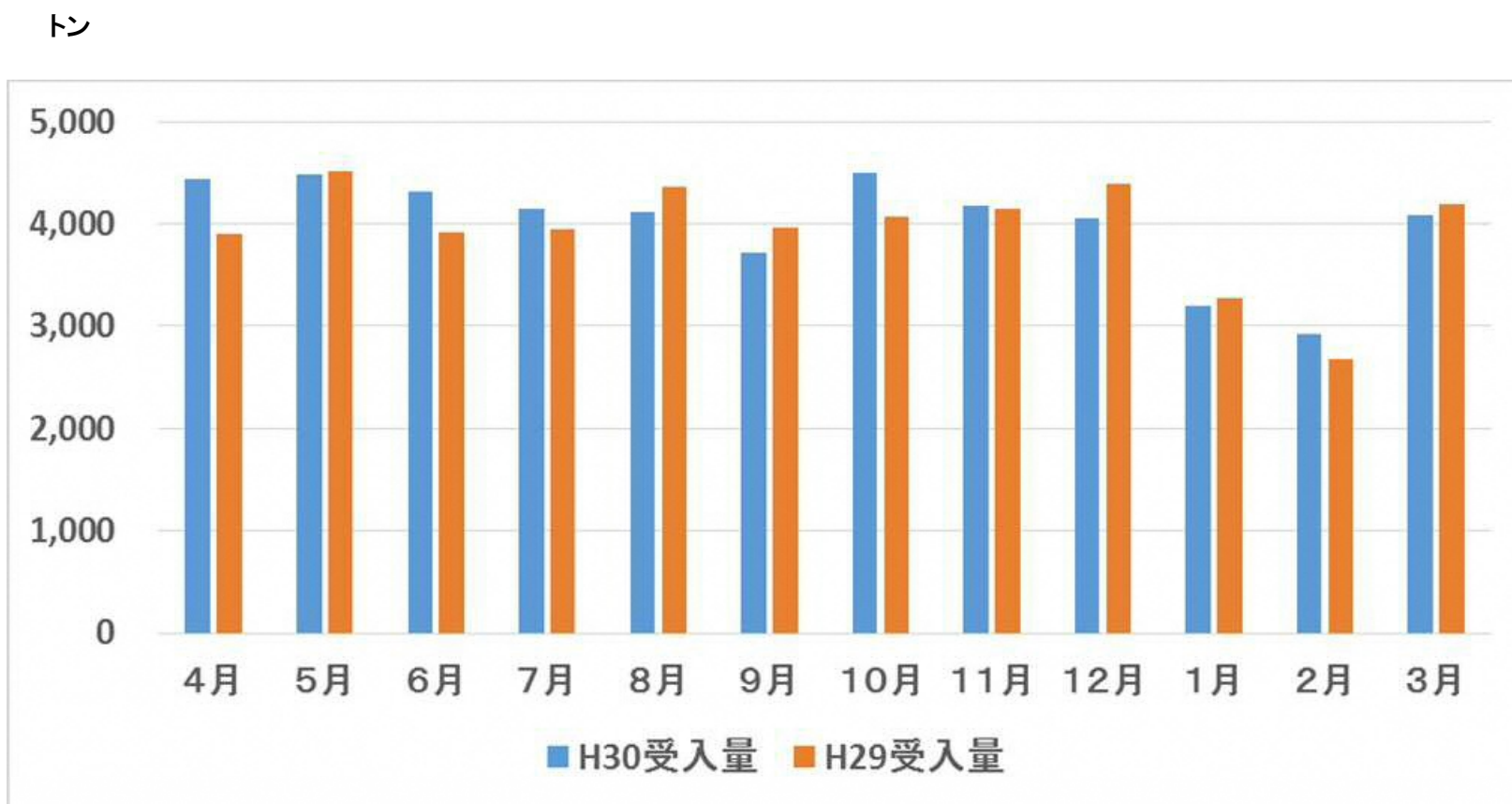
平成30年度 ごみ受入量

合計 48千トン



平成30年度 ごみ受入量 前年度比較

前年度比 1.67%増

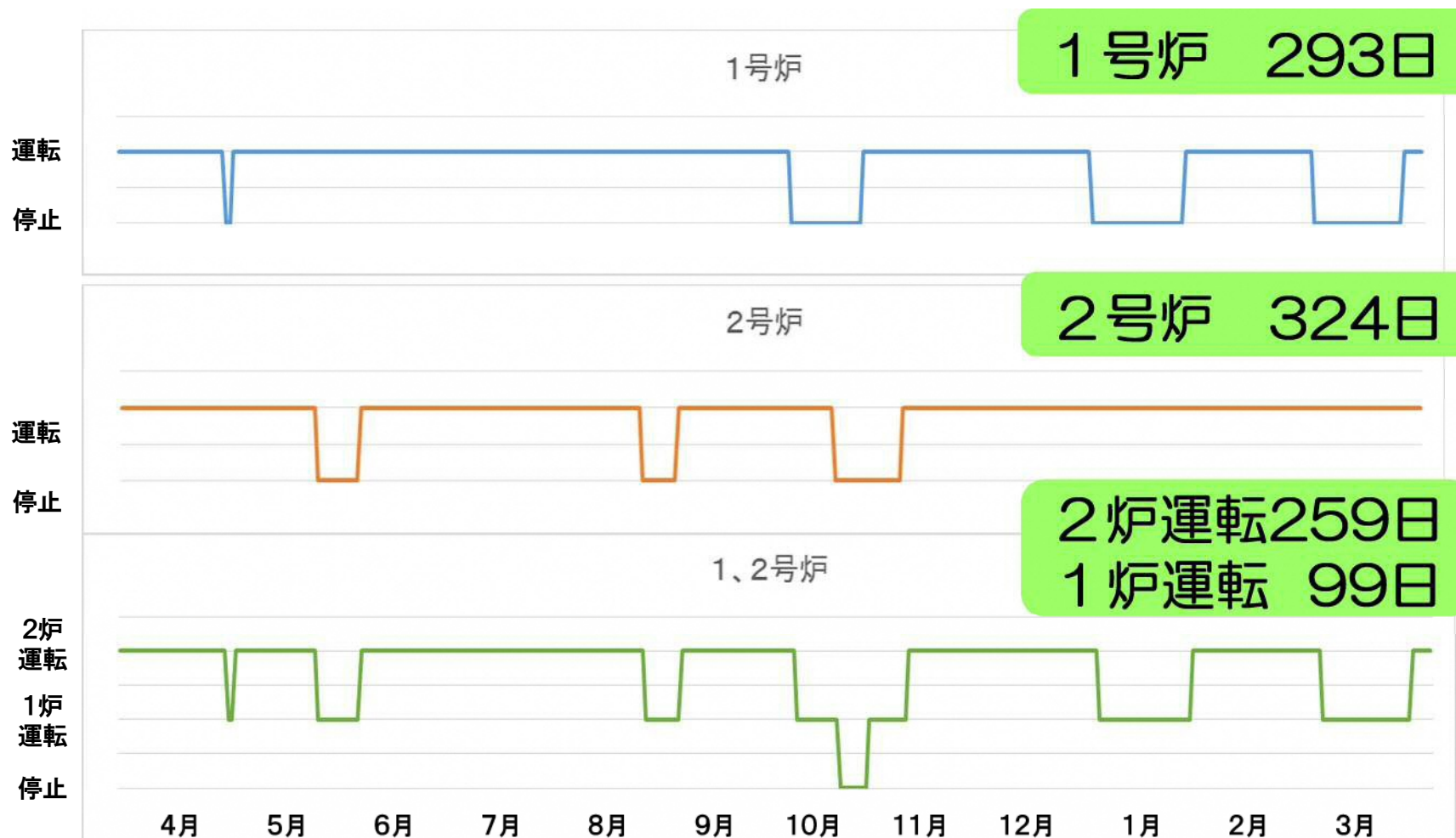


平成30年度 ごみ焼却処理量

合計 51千トン



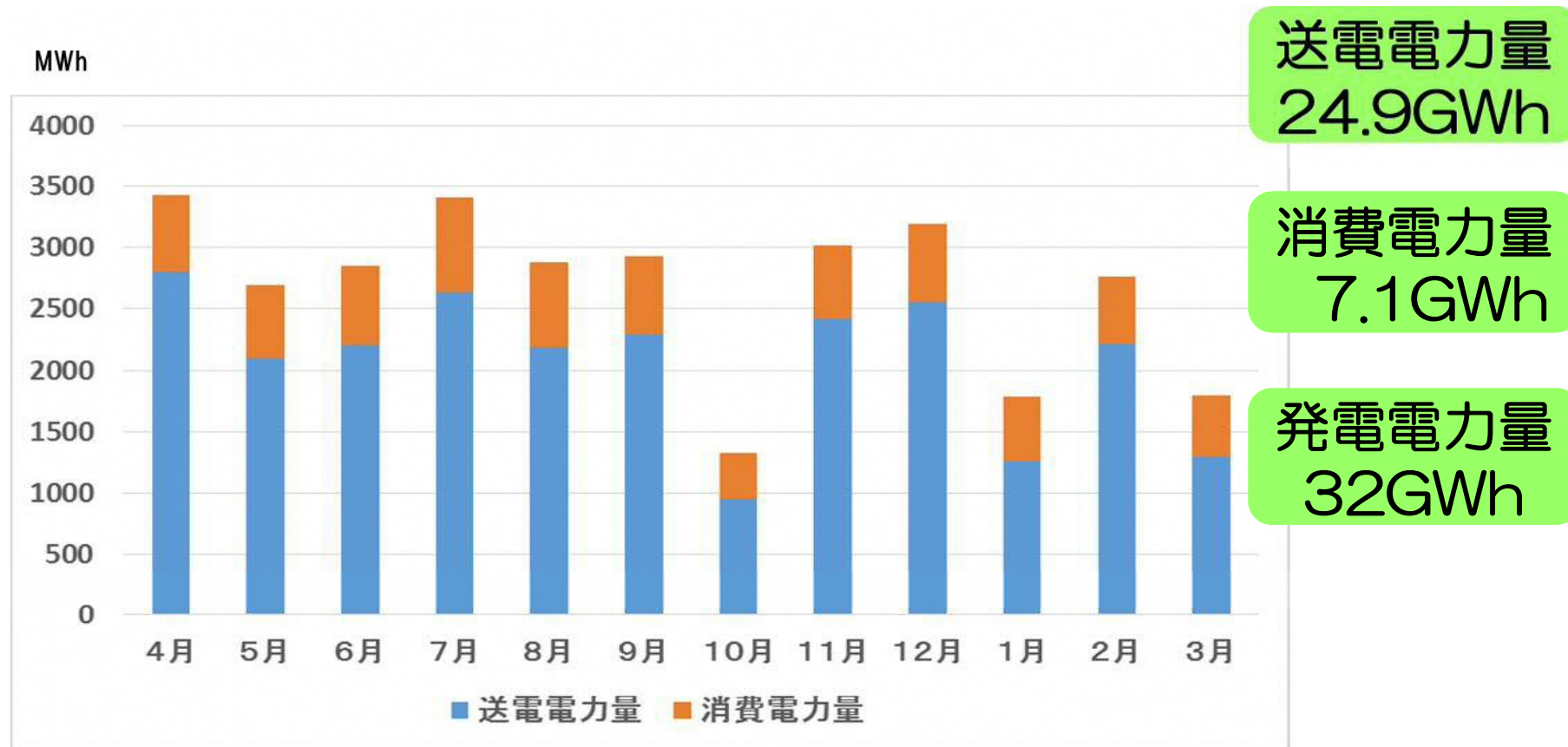
平成30年度 焼却炉稼働状況



平成30年度 ごみピット量



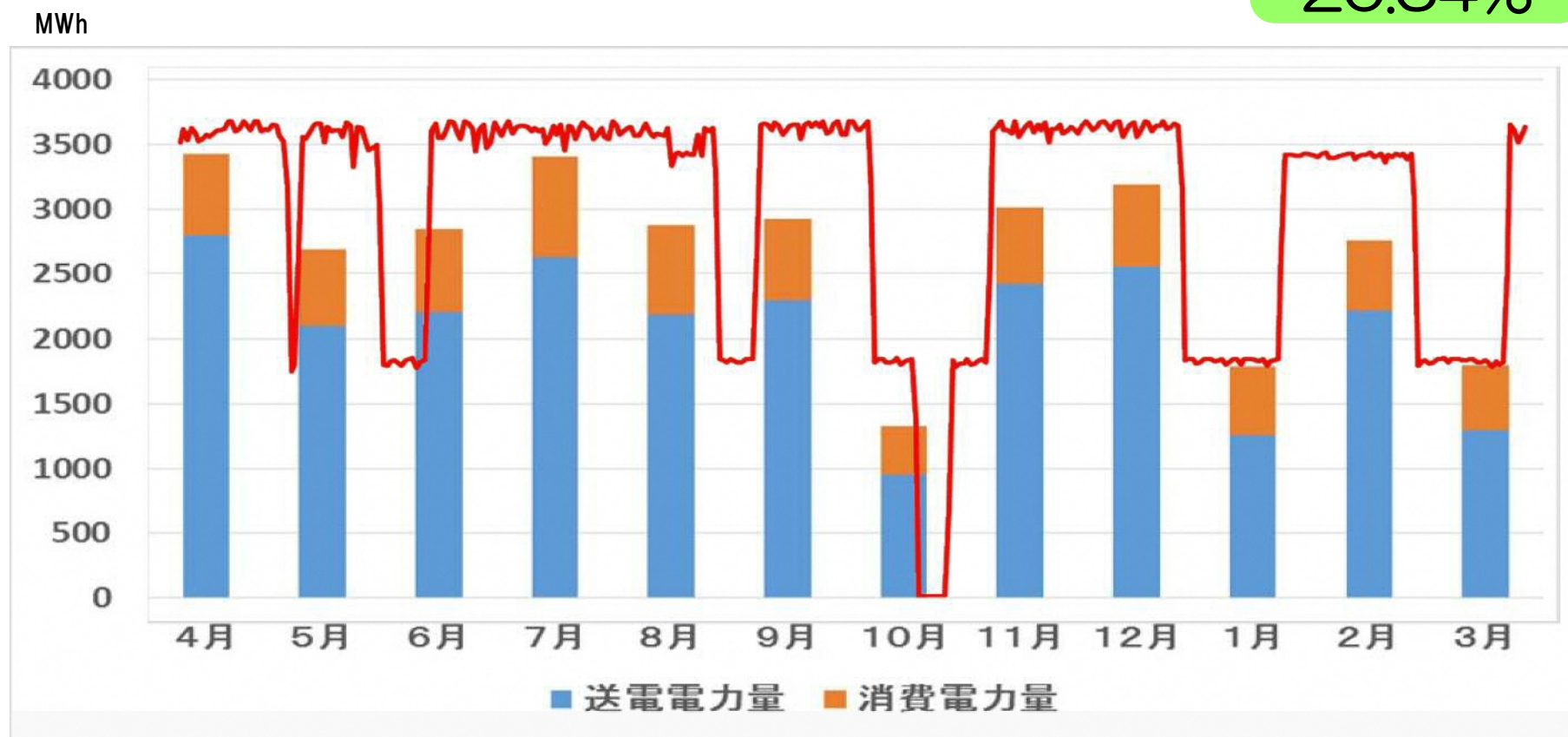
平成30年度 発電状況



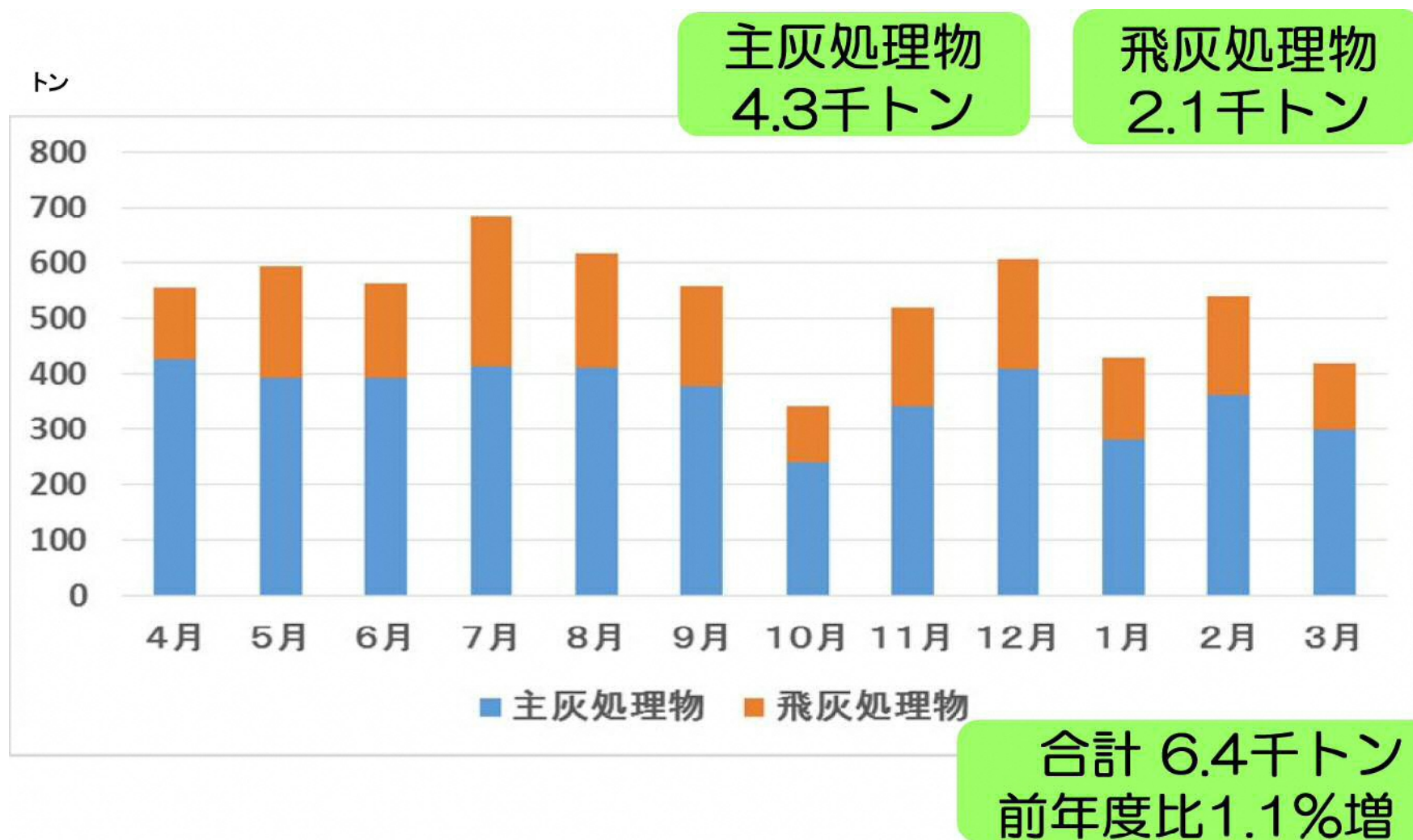
注記:上記の消費電力には、10月共通停止時の購入電力92.5MWh及び非常用発電機の発電量を含んでいません。

平成30年度 発電状況

発電端効率
20.54%

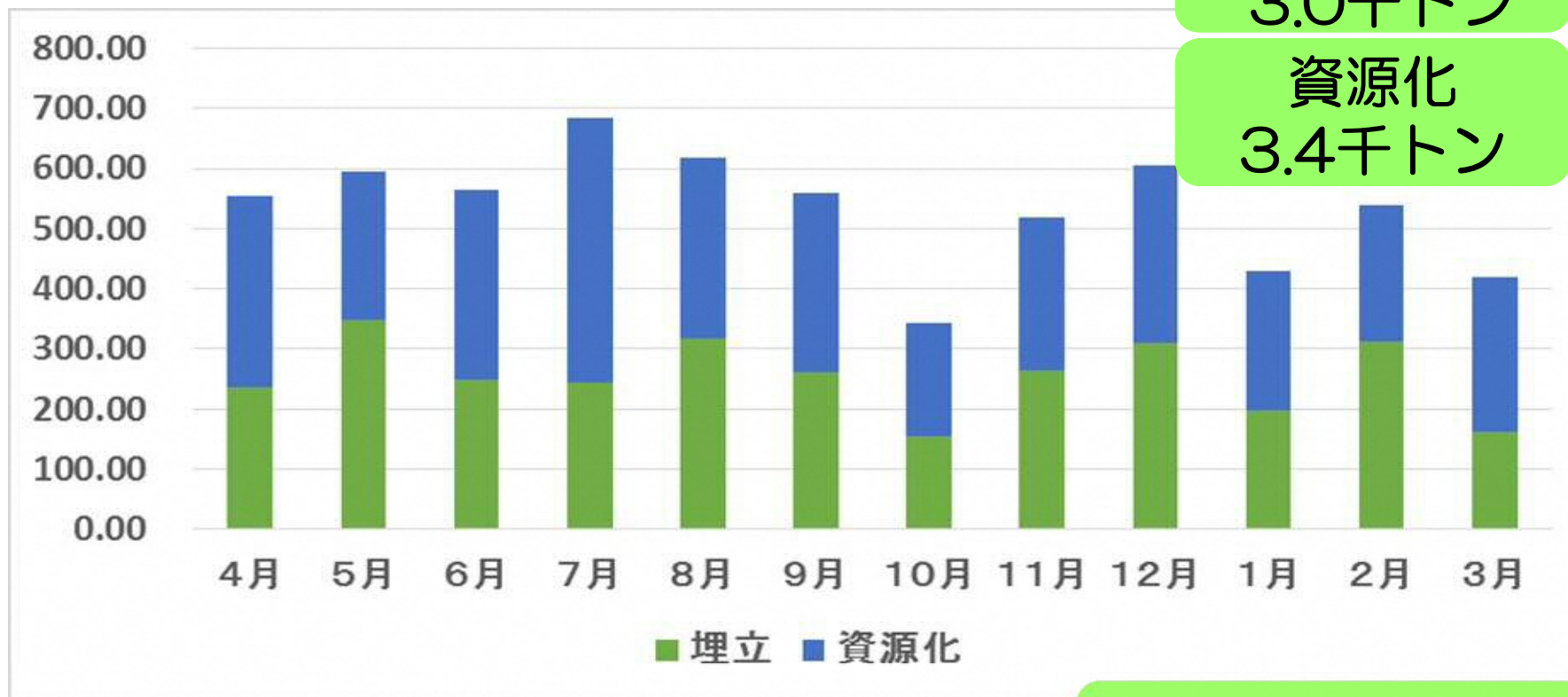


平成30年度 灰搬出量



平成30年度 灰処分量

トン



埋立
3.0千トン

資源化
3.4千トン

合計 6.4千トン



環境をみまもるための測定・管理について

**大気を汚さないように、
煙突から放出する物質の濃度・量が
法律等で決められています。**

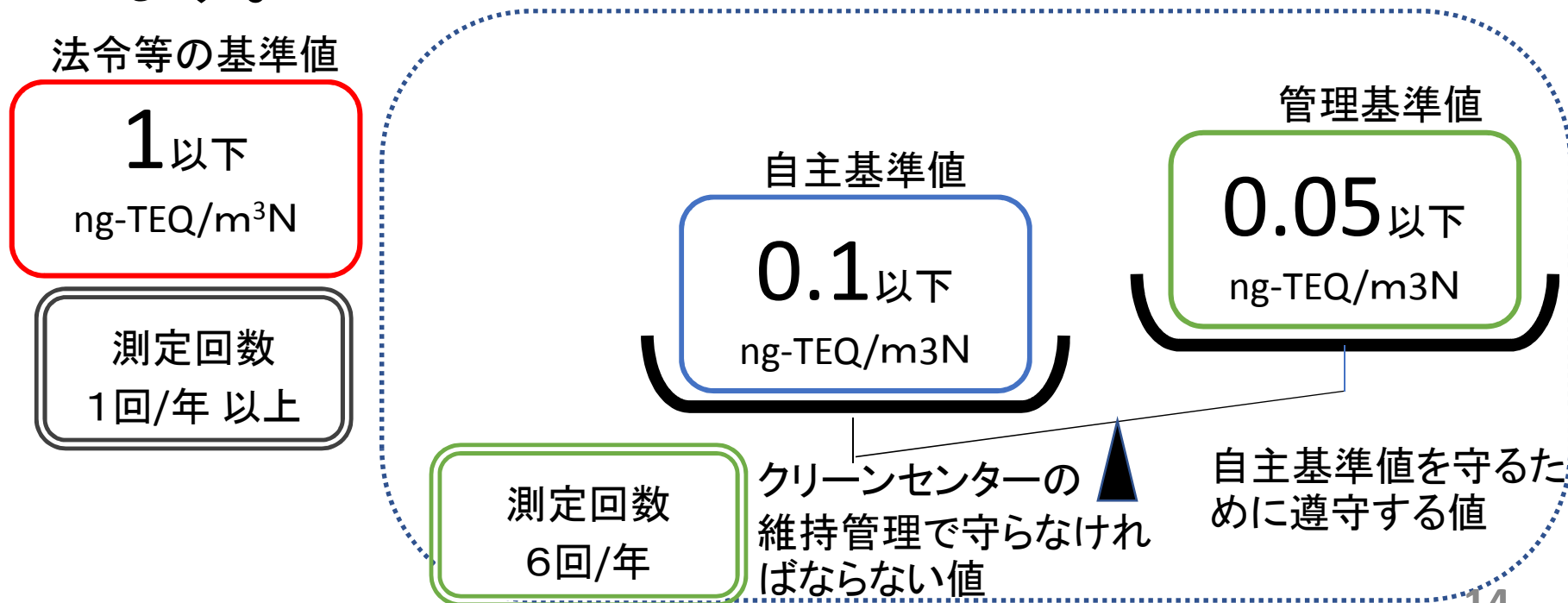
- 1 **ダイオキシン類**
- 2 **ばいじん**
- 3 **塩化水素**
- 4 **硫黄酸化物**
- 5 **窒素酸化物**
- 6 **全水銀**

平成30年度
大気汚染防止法に基づく測定（ばい煙測定）



1 ダイオキシン類

物質の燃焼が悪い時に発生します。
発癌性などの毒性が高い有機塩素化合物です。
環境汚染による人間の健康や生態系への影響が懸念されています。



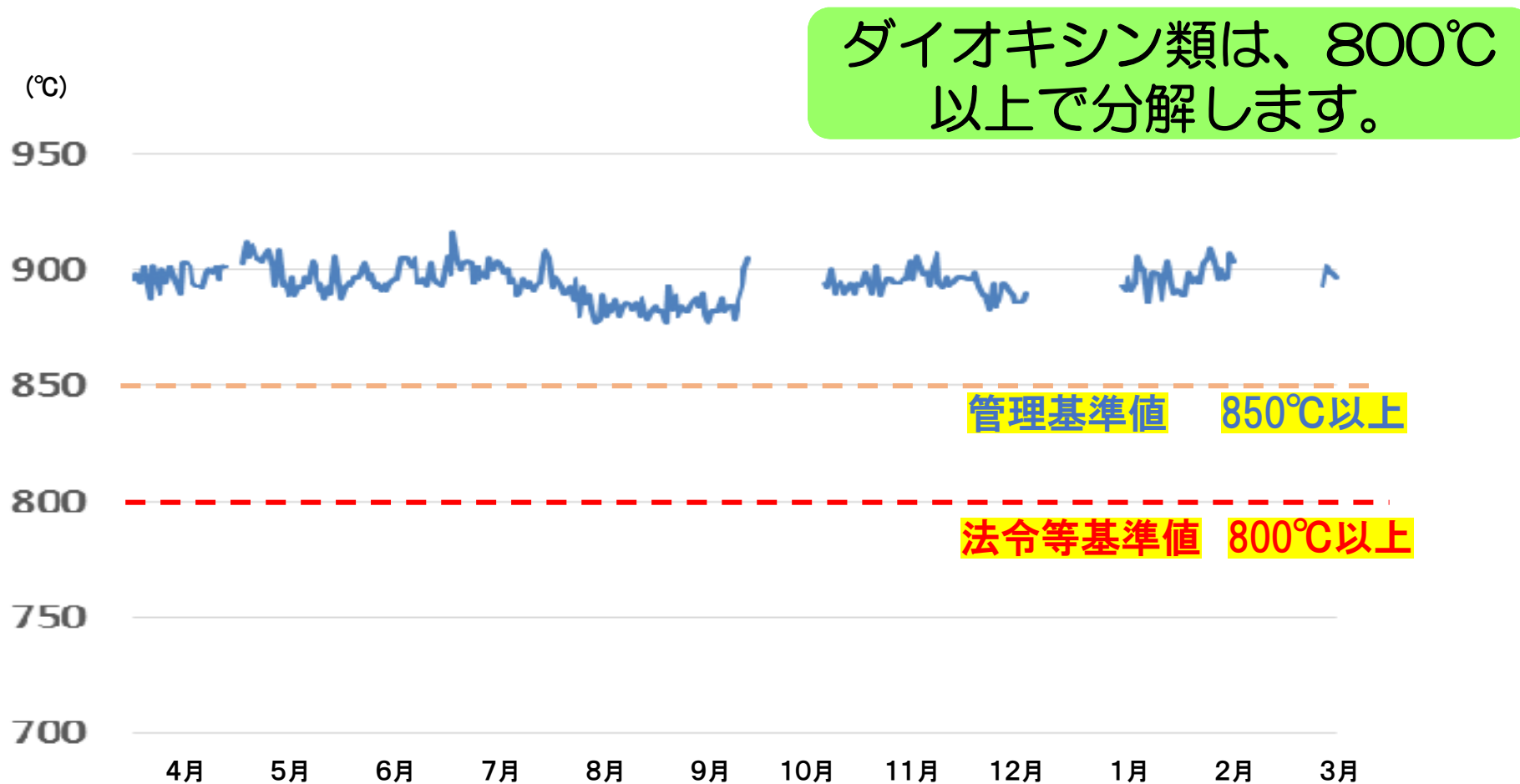
平成30年度 大気汚染防止法に基づく測定（ダイオキシン類）

ダイオキシン類：測定年6回（法令等では年1回以上）

単位：ng-TEQ/m³N

	測定日	H30年4月	H30年6月	H30年8月	H30年10月	H30年12月	H31年2月
	管理基準値						
1号炉	0.05ng-TEQ/m ³ N 以下	0.00079	0.00044	0.00032	0.00078	0.00058	0.0110
2号炉		0.00080	0.0150	0.0039	0.0051	0.0070	0.0040

平成30年度 1号炉燃烧ガス温度の推移

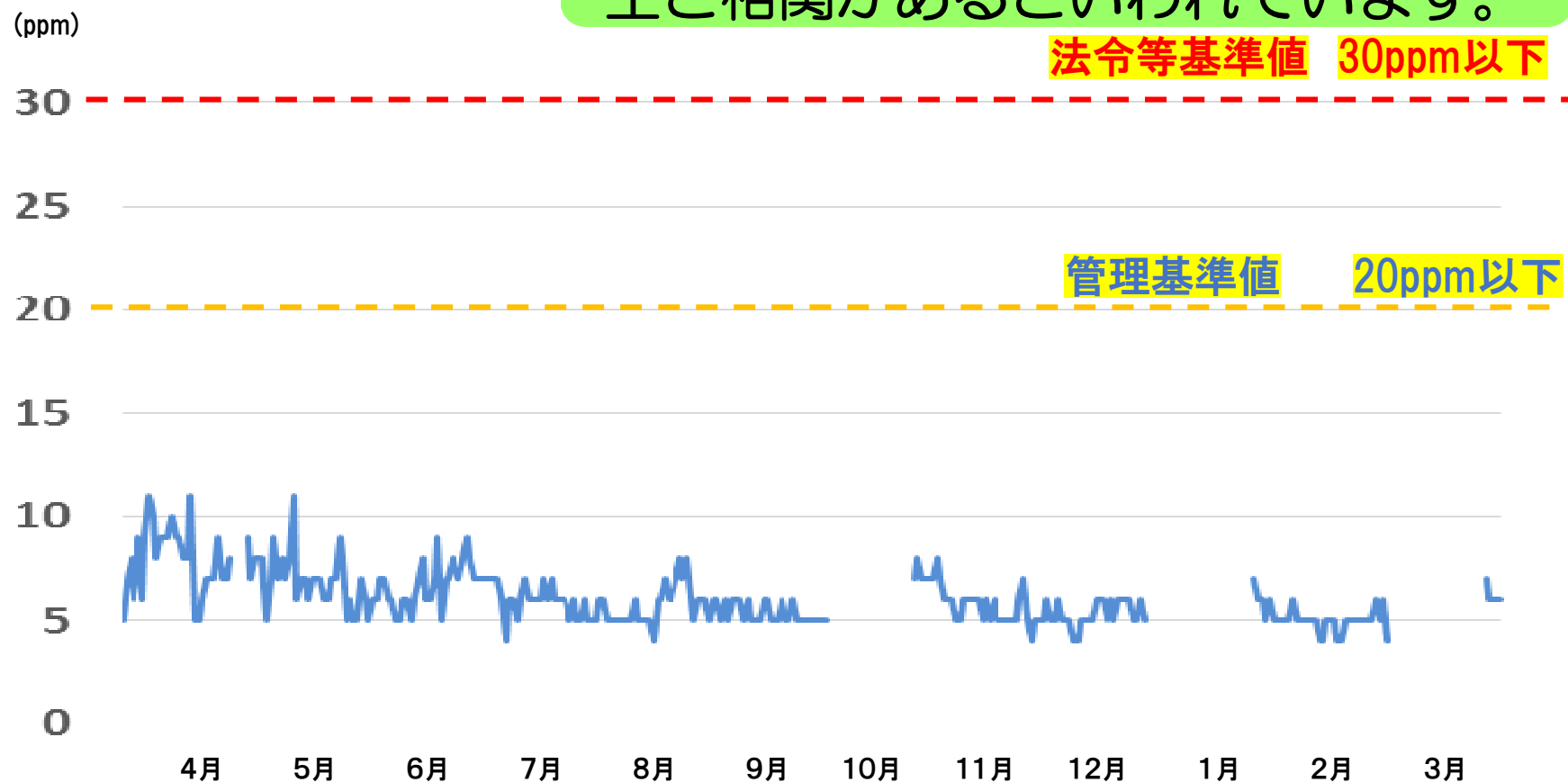


平成30年度 2号炉燃烧ガス温度の推移



平成30年度 1号炉一酸化炭素の排出状況

一酸化炭素は、ダイオキシン類の発生と相関があるといわれています。



平成30年度 2号炉一酸化炭素の排出状況



2 ばいじん

ばいじんは、焼却で発生する細かい粒子状の物質です。
たき火の煙にも含まれています。
ぜんそく、慢性気管支炎などの病気を招く可能性があります。



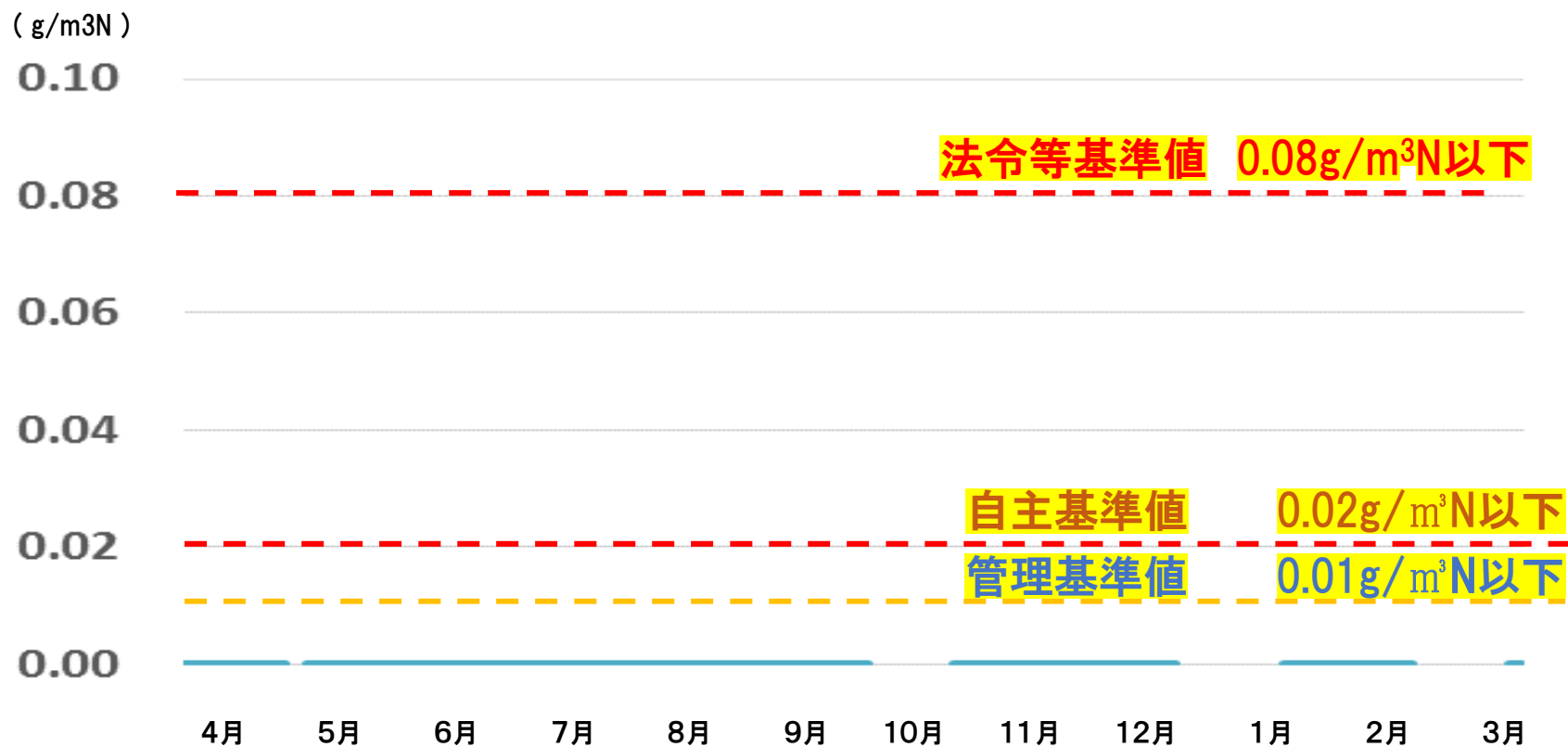
平成30年度 大気汚染防止法に基づく測定（ばいじん）

ばいじん：測定年6回（法令等では年2回以上）

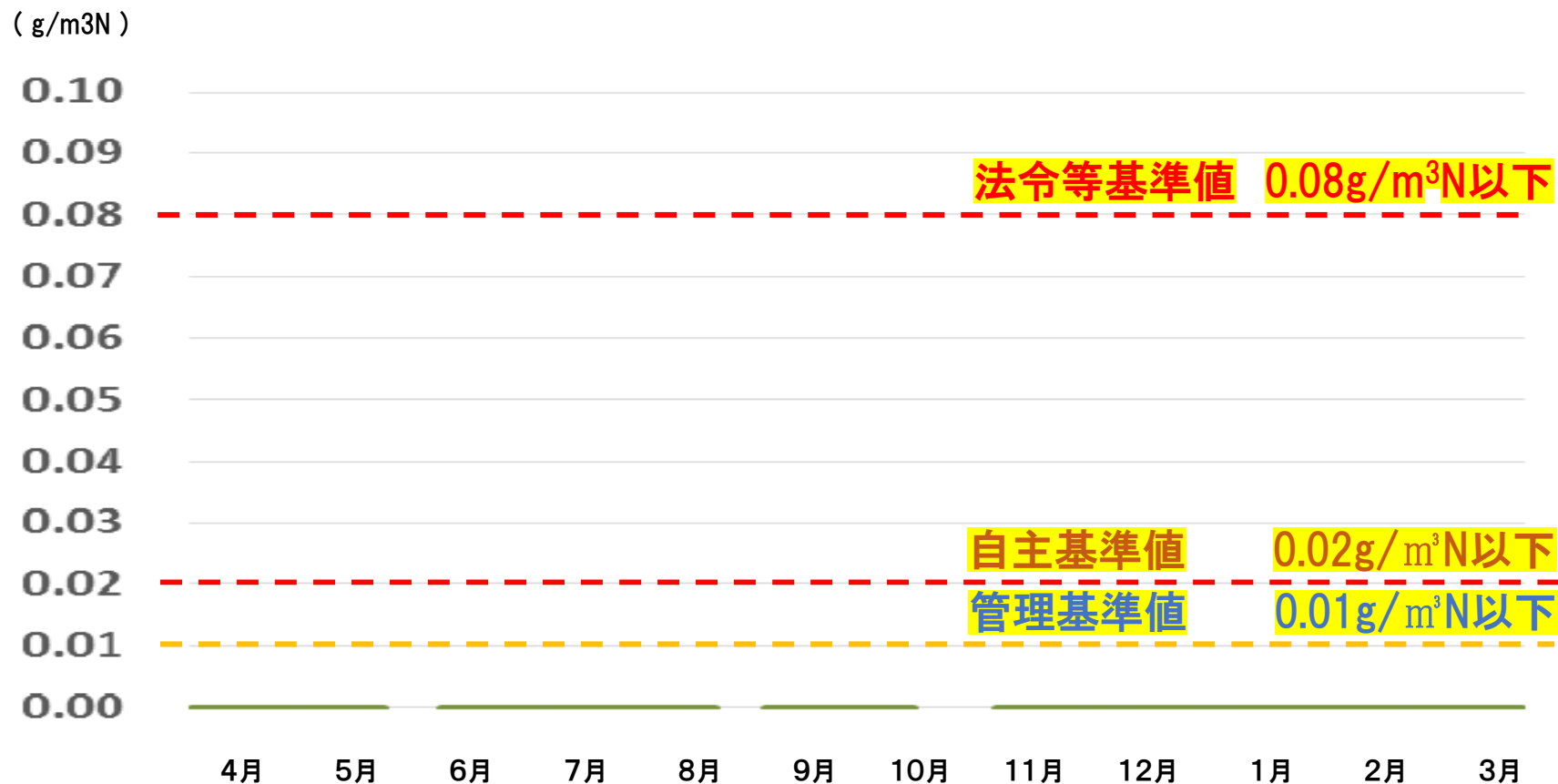
単位：g/m³N

	測定日	H30年4月	H30年6月	H30年8月	H30年10月	H30年12月	H31年2月
	管理基準値						
1号炉	0.01 g/m ³ N 以下	0.001 未満	0.001 未満	0.001 未満	0.001 未満	0.001 未満	0.001 未満
2号炉		0.001 未満	0.001 未満	0.001 未満	0.001 未満	0.001 未満	0.001 未満

平成30年度 1号炉ばいじんの排出状況

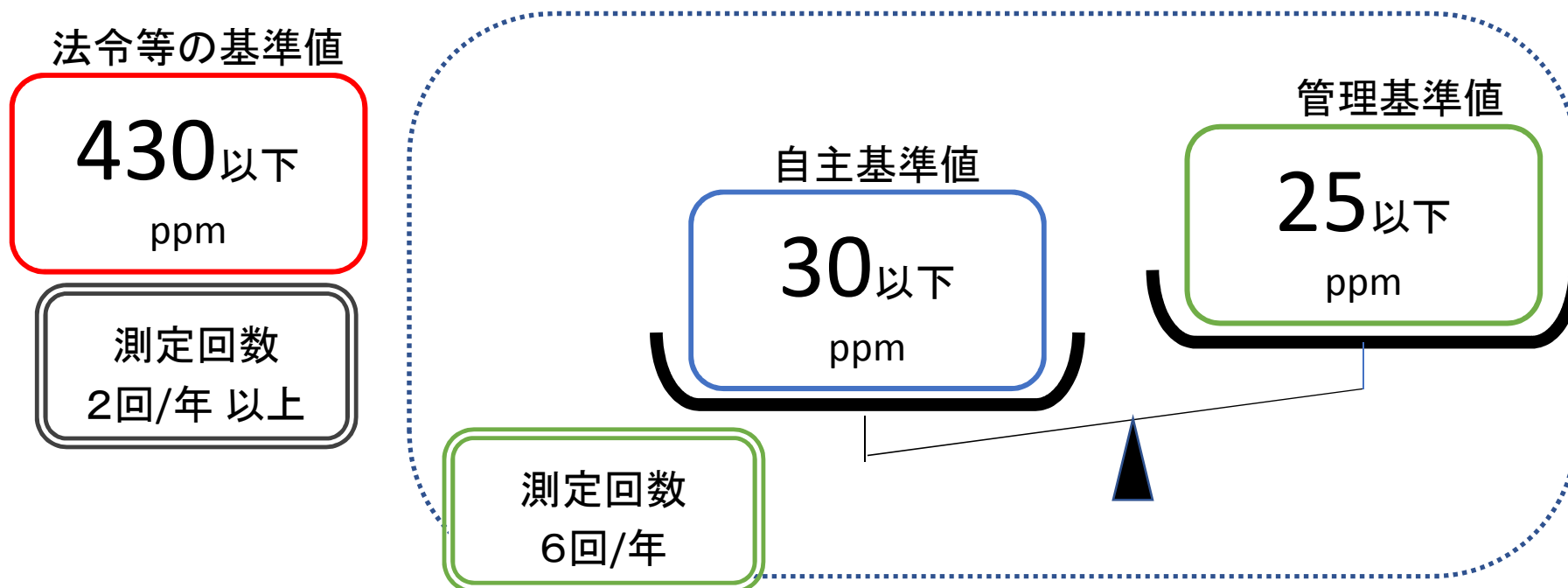


平成30年度 2号炉ばいじんの排出状況



3 塩化水素

塩化ビニル等の塩素系高分子化合物の燃焼により発生。
粘膜を刺激し炎症を起こします。
大気汚染の原因となります。



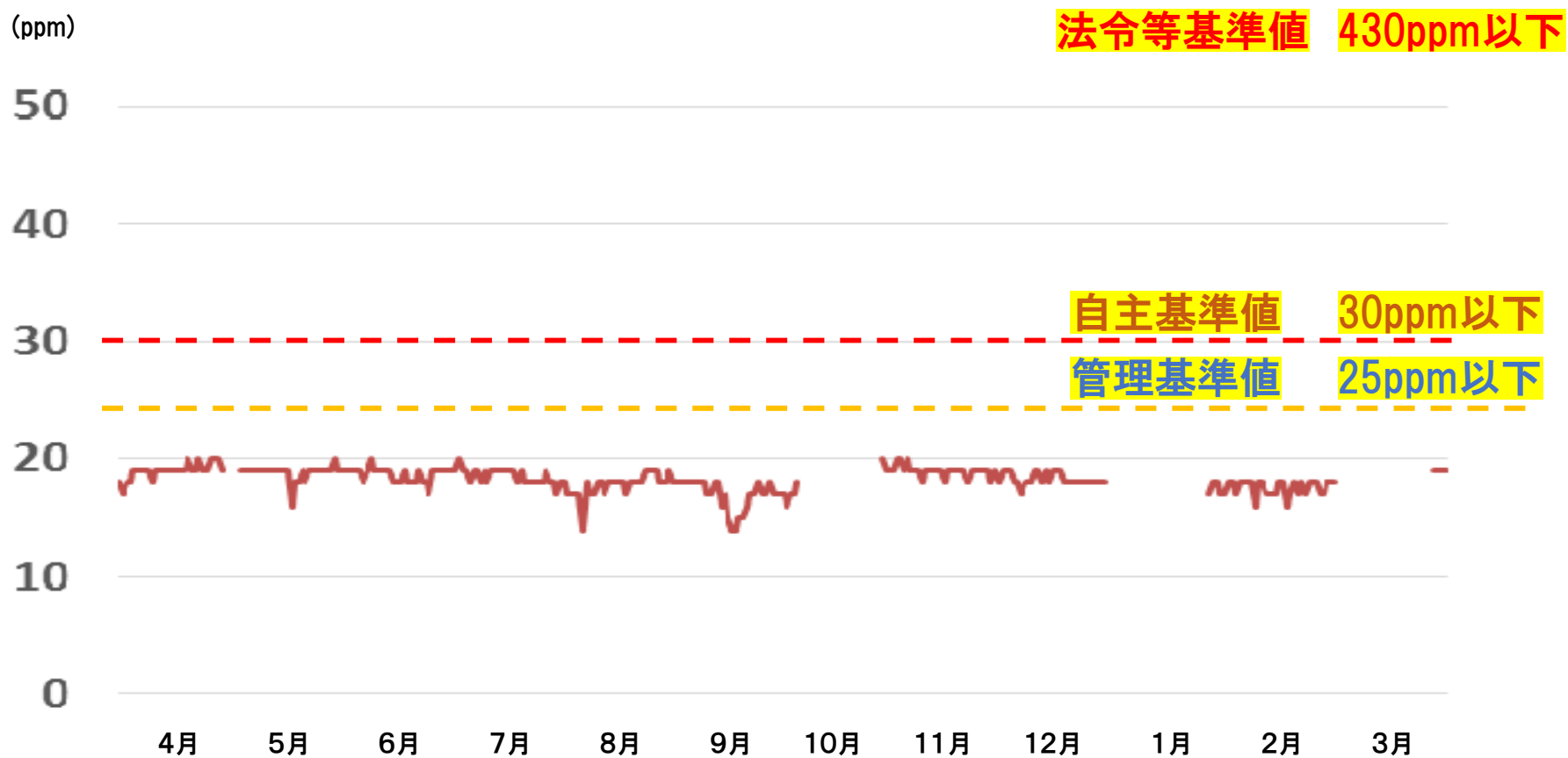
平成30年度 大気汚染防止法に基づく測定（塩化水素）

塩化水素：測定年6回（法令等では年2回以上）

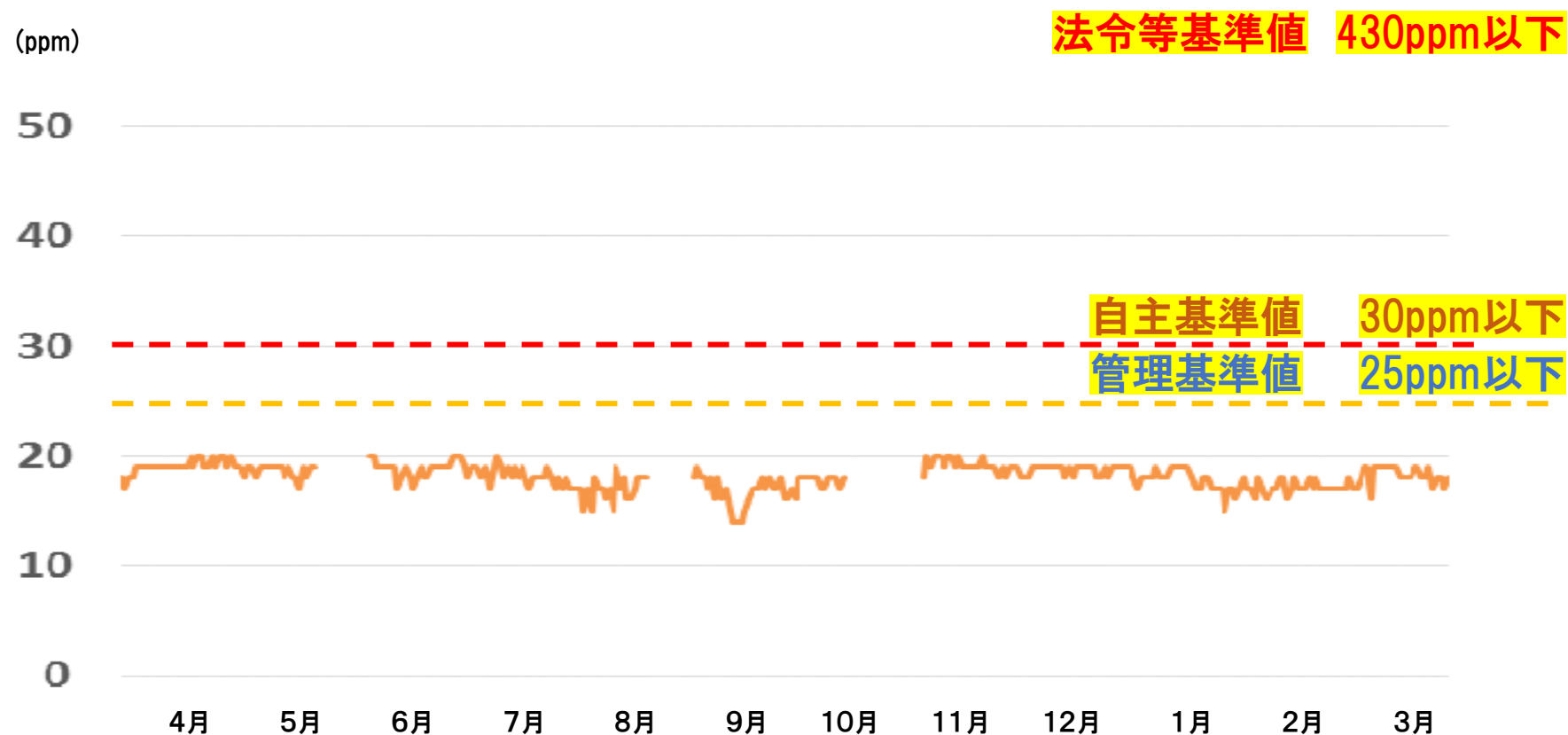
単位：ppm

	測定日	H30年4月	H30年6月	H30年8月	H30年10月	H30年12月	H31年2月
1号炉	管理基準値 25 ppm 以下	15	18	16	14	16	18
2号炉		16	19	18	17	17	19

平成30年度 1号炉塩化水素の排出状況

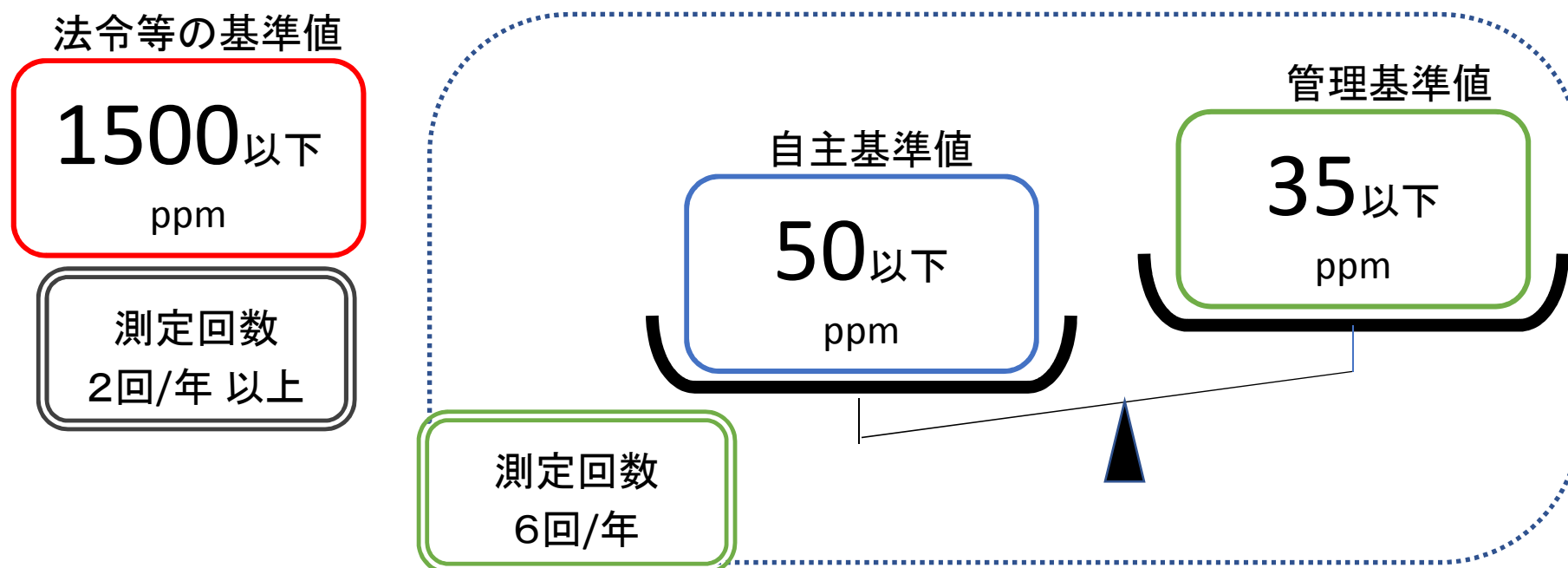


平成30年度 2号炉塩化水素の排出状況



4 硫黄酸化物

硫黄と酸素が結合してできる酸化物の総称で、化石燃料を燃焼するときに発生します。
刺激臭が強く、呼吸機能や目の粘膜に刺激を与えます。
大気汚染の主な原因といわれ、酸性雨の原因にもなります。



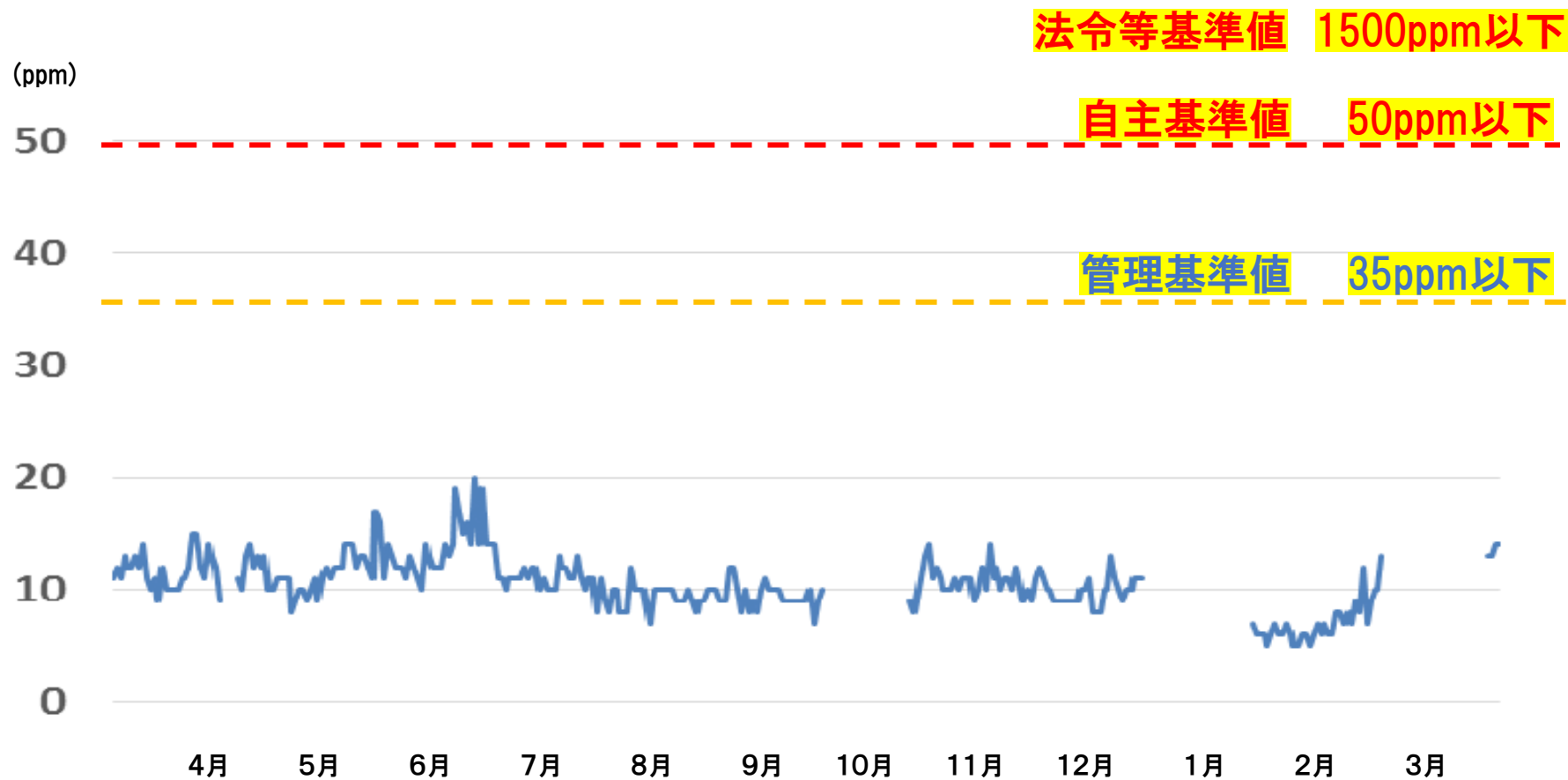
平成30年度 大気汚染防止法に基づく測定（硫黄酸化物）

硫黄酸化物：測定年6回（法令等では年2回以上）

単位：ppm

	測定日	H30年4月	H30年6月	H30年8月	H30年10月	H30年12月	H31年2月
	管理基準値						
1号炉	35 ppm 以下	10	14	8	9	13	12
2号炉		11	11	12	11	13	4

平成30年度 1号炉二酸化硫黄の排出状況

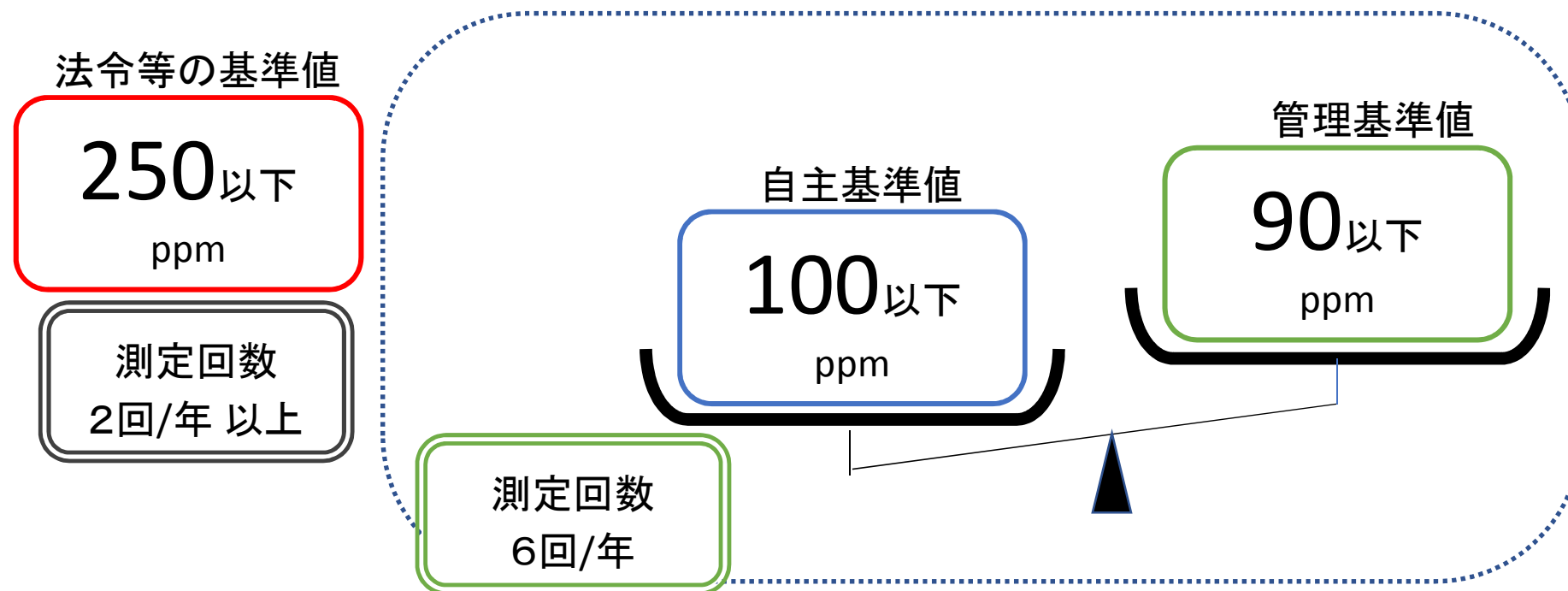


平成30年度 2号炉二酸化硫黄の排出状況



5 窒素酸化物

物が高温で燃やされたときに発生します。
高い濃度の時、人の呼吸器に悪い影響を与えます。
光化学スモッグや酸性雨の原因になります。



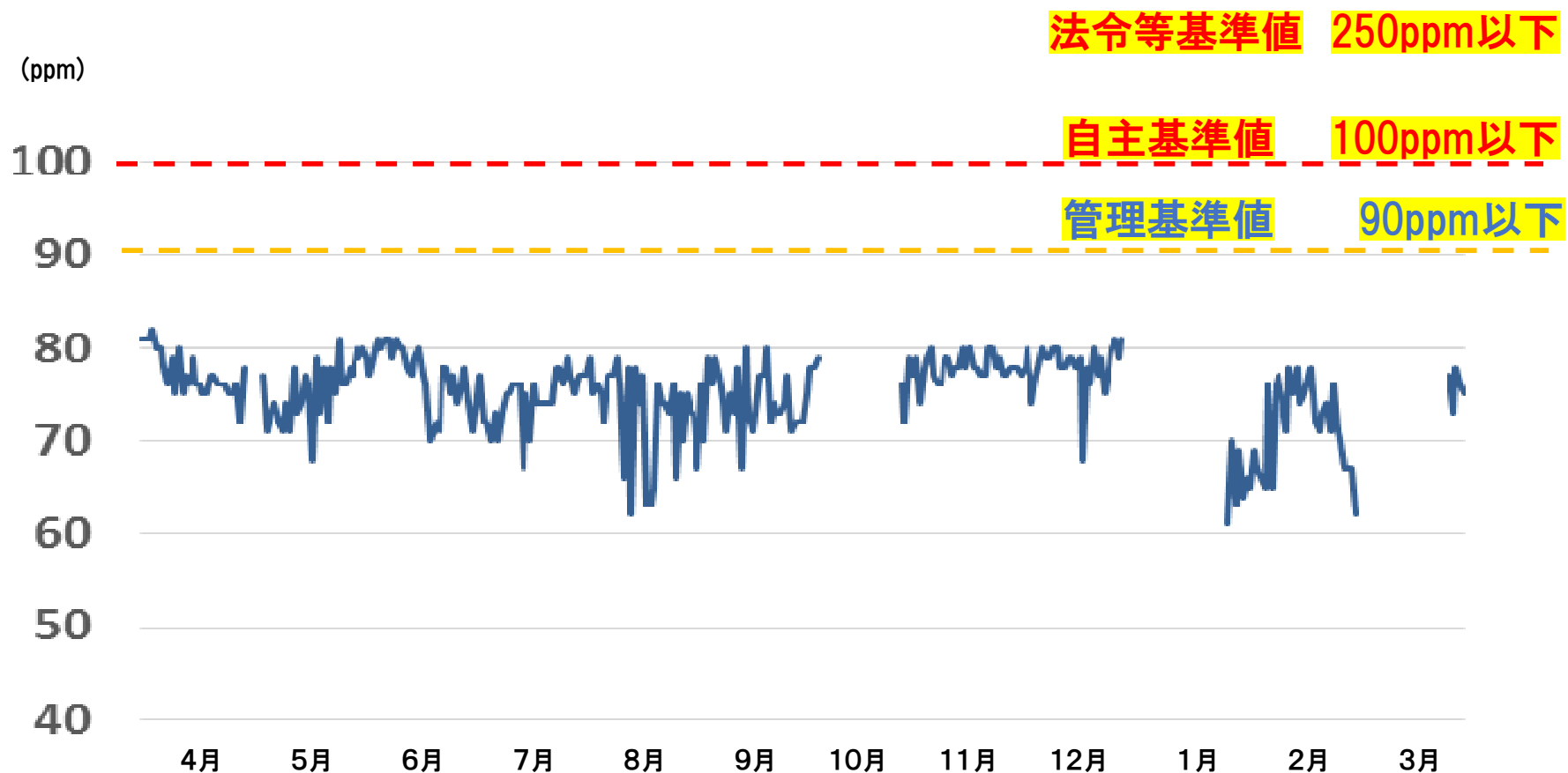
平成30年度 大気汚染防止法に基づく測定（窒素酸化物）

窒素酸化物：測定年6回（法令等では年2回以上）

単位：ppm

	測定日	H30年4月	H30年6月	H30年8月	H30年10月	H30年12月	H31年2月
	管理基準値						
1号炉	90 ppm 以下	68	60	69	74	71	68
2号炉		73	68	69	77	74	65

平成30年度 1号炉室素酸化物の排出状況



平成30年度 2号炉室素酸化物の排出状況



6 全水銀

ガス状水銀、粒子状水銀をあわせて全水銀と云います。
水銀を含んだごみが燃焼されることで発生します。
中枢神経・内分泌器・腎臓などの器官に障害をもたらします。
水俣病の原因となります。

法令等の基準値

0.05以下
mg/m³

測定回数
2回/年 以上

自主基準値

0.05以下
mg/m³

測定回数
2回/年

平成30年4月1日から水銀大気排出規制が開始されました。



平成30年度 大気汚染防止法に基づく測定（水銀濃度）

測定年2回（法令等では年2回以上）

自主基準値：0.05 mg/m³以下

単位：mg/m³

	1号		2号	
測定日	H30年4月	H30年10月	H30年4月	H30年10月
水銀濃度	0.0018	0.0022	0.0016	0.0021

平成30年度 大気汚染防止法に基づく測定（水銀濃度）

単位：mg/m³

